本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。
ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

アダージオHG

災害2割加算型変額個人年金保険（アダージオ）

特別勘定の月次運用レポート
2026年10月末現在

〇市場概況
〇特別勘定の運用状況
〇組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
●受取総額が一時払保険料相当額を下回ること（元本割れリスク）があります。
●保険関係費用：ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.30%の割合で資産残高から毎日控除されます。90歳開始年金原資保証特約を付加した場合は特約分の保険関係費用（資産残高に対して年率0.05%）が別途必要になり、合計で年率2.35%の割合で資産残高から毎日控除されます。ただし、マネーファンドの保険関係費用には優遇措置（上限：年間100日まで）があります。
●運用関係費用：ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.188%程度（税抜1.08%）程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
●契約管理手数料：毎年の契約応当日の前日の資産残高が200万円未満の場合、前年の契約管理手数料として年額4,800円が契約応当日に資産残高から控除されます。全部解約時の資産残高が200万円未満の場合、解約の年の契約管理手数料として一律4,800円が解約時に控除されます。
●年金管理費：年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
●解約控除：ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約、一部解約（ご契約または増額時から7年未満の元本総額の5%相当額までを除く）をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%～2%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
※解約控除対象額は、全部解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

＊この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用（「保険関係費用」「運用関係費用」）」と「年金受取期間中の費用（「年金管理費」）」の合計額となります。また、特定のお客さまには「契約管理手数料」や「解約控除」がかかります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

[募集代理店]
株式会社広島銀行

[引受保険会社]
オリックス生命保険株式会社

2611広告審査済
(管)ORI-099

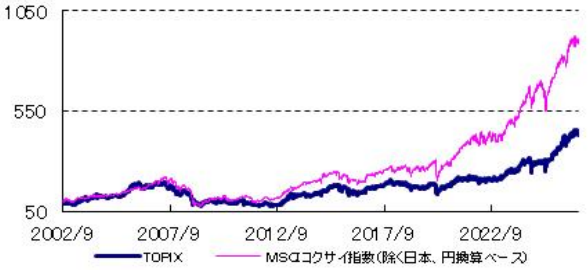
市　　場　　概　　況

	代表的な指標の騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.19%	▲ 1.67%	6.76%	20.76%	105.10%
	TOPIX（東証株価指数）	▲ 3.49%	▲ 0.95%	6.38%	19.01%	75.93%
日本債券	NOMURA－BPI総合	1.76%	0.48%	▲ 0.65%	▲ 5.23%	▲ 9.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数（除く日本、円換算ベース）	0.78%	0.33%	5.24%	14.87%	89.25%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	1.34%	▲ 2.02%	▲ 2.81%	1.80%	22.57%
外国為替	米ドル対円為替レート（仲値）	0.12%	▲ 1.98%	▲ 1.78%	2.23%	5.37%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

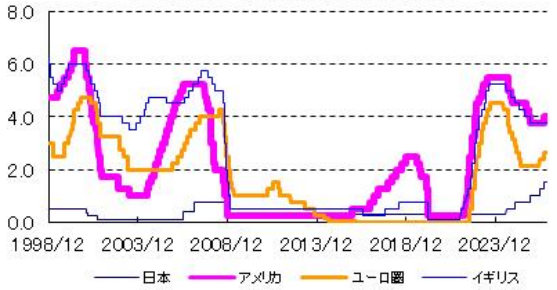


＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定（ファンド）グループ

特別勘定と投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計
	株　式		債　券				投資信託	現預金その他	（百万円）
	日本	外国	日本	外国					
日本株式ファンド SR	●				シュローダー日本株式オープンVA＊	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	98.3%	1.7%	176
日本株式インデックスファンド225 NKA	●				インデックスファンド225　VA＊	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社	96.4%	3.6%	1,547
日本小型株式ファンド ML	●				JDF日本小型株ファンドVA＊	ブラックロック・ジャパン株式会社	96.7%	3.3%	304
外国株式インデックスファンド MS		●			インベスコ　MSCIコクサイ・インデックス・ファンド	インベスコ・アセット・マネジメント株式会社	97.2%	2.8%	66
外国債券ファンド PJ				●	ピムコ・海外債券ファンド＊	ピムコ ジャパン リミテッド	96.9%	3.1%	83
外国債券インデックスファンド TMY				●	三菱UFJ 外国債券ファンドVA2＊	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	96.9%	3.1%	24
マネー MA			●		三菱 MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	97.0%	3.0%	224

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

投資信託の運用方針

投資対象の投資信託	運用方針
シュローダー日本株式オープンVA＊	主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。
インデックスファンド225　VA＊	主に日本株式に投資することによって、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果の獲得を目指します。
JDF日本小型株ファンドVA＊	主に日本の上場株式の中小型株に投資し、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安全性等を総合的に勘案し銘柄選定します。
インベスコ　MSCIコクサイ・インデックス・ファンド	主に日本を除く世界先進国の株式に投資し、MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円換算ベース）に連動した投資成果を目指します。
ピムコ・海外債券ファンド＊	主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。
三菱UFJ 外国債券ファンドVA2＊	主に日本を除く世界主要国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。
三菱 MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	主に信用度が高く残存期間の短い日本国内外の公社債、CP等の短期金融商品に投資することによって、安定した収益の確保を目指します。

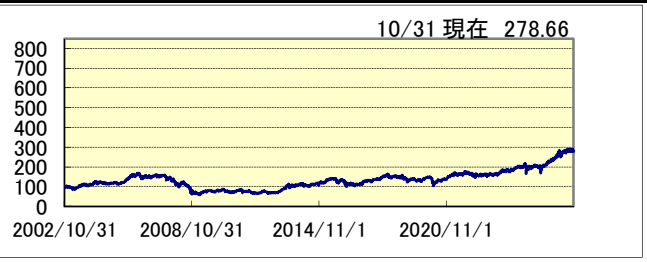
＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

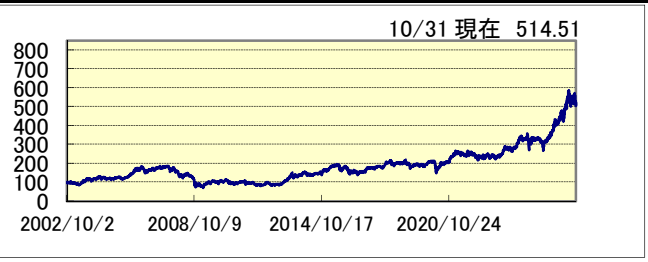
《90歳開始年金原資保証特約付》

日本株式ファンド SR



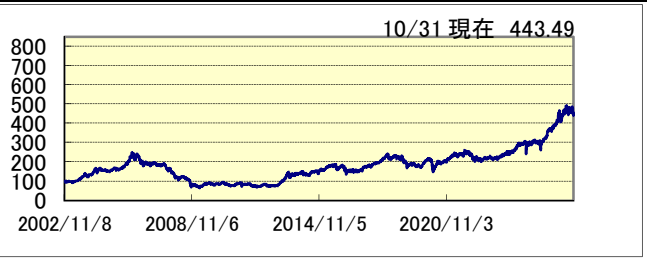
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.22%	−1.45%	1.85%	16.14%	55.82%	178.66%

日本株式インデックスファンド225 NKA



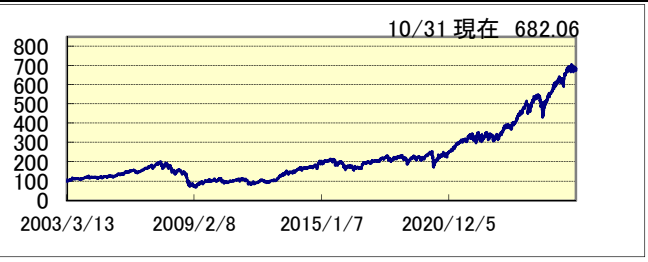
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−5.20%	−1.67%	5.79%	18.41%	93.41%	414.51%

日本小型株式ファンド ML



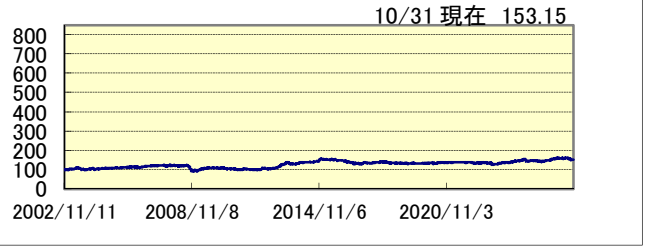
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−6.60%	−2.43%	−1.09%	17.64%	81.18%	343.49%

外国株式インデックスファンド MS



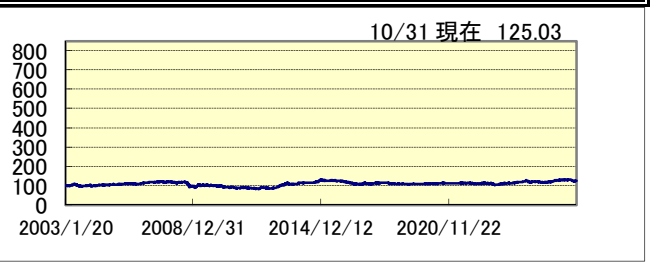
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.61%	−0.19%	4.12%	12.46%	84.83%	582.06%

外国債券ファンド PJ



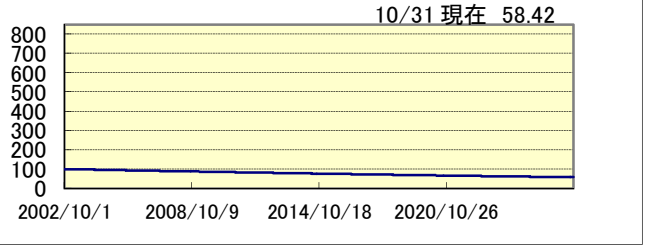
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.27%	−2.95%	−4.33%	−1.99%	12.23%	53.15%

外国債券インデックスファンド TMY



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.10%	−3.68%	−4.41%	−1.39%	11.00%	25.03%

マネー MA



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.10%	−0.35%	−0.79%	−1.73%	−5.93%	−41.58%

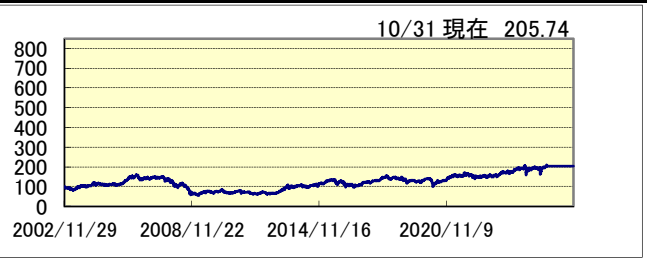
※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

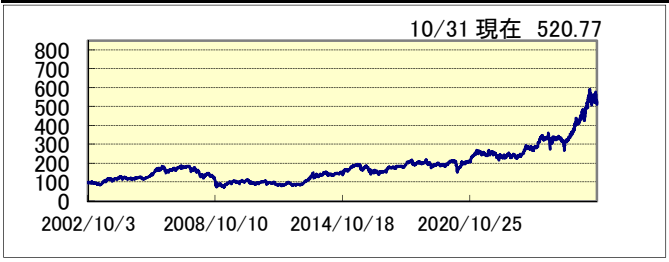
《特約無し》

日本株式ファンド SR



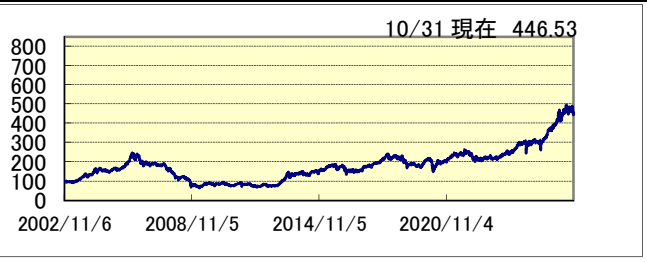
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.40%	105.74%

日本株式インデックスファンド225 NKA



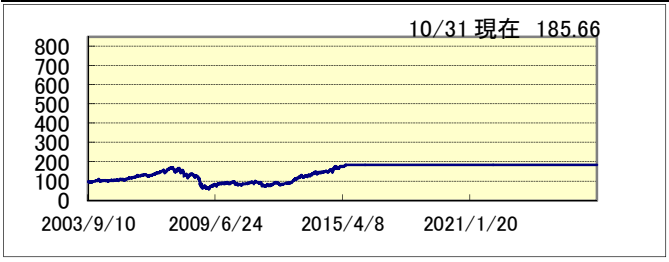
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−5.20%	−1.66%	5.82%	18.47%	93.70%	420.77%

日本小型株式ファンド ML



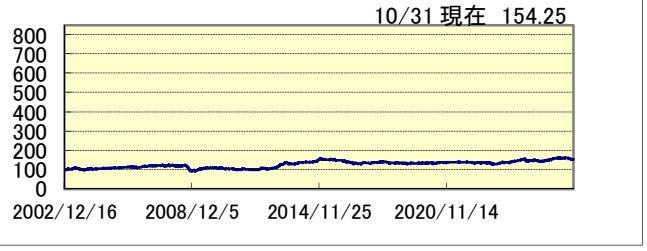
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−6.60%	−2.42%	−1.06%	17.70%	81.45%	346.53%

外国株式インデックスファンド MS



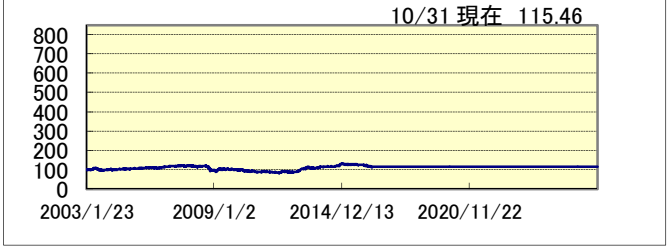
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	85.66%

外国債券ファンド PJ



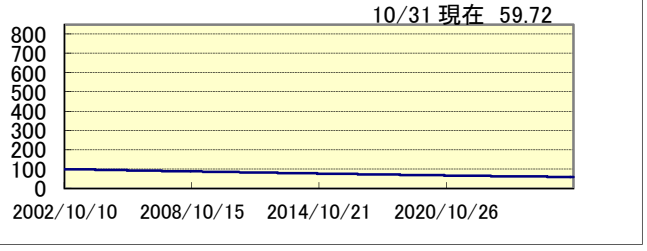
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.27%	−2.94%	−4.31%	−1.94%	12.40%	54.25%

外国債券インデックスファンド TMY



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	15.46%

マネー MA



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.10%	−0.34%	−0.73%	−1.26%	−4.89%	−40.28%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式ファンド　SR

【特別勘定が投資する投資信託】

シュローダー日本株式オープンVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。

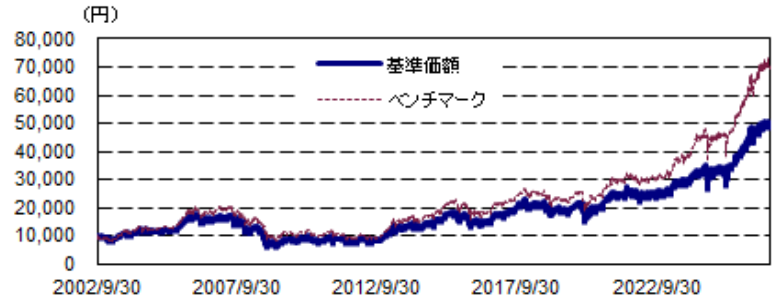
■ファンド状況

2026年10月30日現在

基準価額	48,522円	純資産総額	225(百万円)	組入銘柄数*	68銘柄

＊マザーファンドの組入銘柄数

■設定来の基準価額とベンチマークの推移



＊ベンチマークはTOPIX（東証株価指数、配当込み）です。
＊基準価額は税引前分配金を再投資した場合。

■基準価額(税引前分配金再投資)とベンチマークの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-3.08%	-0.88%	3.16%	19.69%	70.17%	385.22%
ベンチマーク	-3.48%	-0.04%	7.54%	21.71%	88.79%	593.86%

＊騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。分配金を再投資した基準価額の騰落率です。

■東証プライム株式組入上位銘柄

	銘　柄　名	業種	投資比率
1	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	5.76%
2	ゆうちょ銀行	銀行業	3.85%
3	ソニーグループ	電気機器	3.74%
4	伊藤忠商事	卸売業	3.73%
5	三菱電機	電気機器	3.71%
6	アドバンテスト	電気機器	3.51%
7	東京海上ホールディングス	保険業	3.47%
8	キーエンス	電気機器	3.24%
9	オリックス	その他金融業	3.03%
10	住友不動産	不動産業	2.86%

■東証プライム以外の株式組入上位銘柄

	銘　柄　名	業種	投資比率
1	テラプローブ	電気機器	0.41%
2	テクノ菱和	建設業	0.40%
3	-	-	-
4	-	-	-
5	-	-	-

※投資比率は、マザーファンドの投資比率と当ファンドが保有するマザーファンド比率より算出しております。

■組入状況

組入対象	投資比率
株式	99.17%
東証プライム	98.36%
東証スタンダード	0.81%
東証グロース	-
地方単独	-
その他	-
株式先物	-
キャッシュ等	0.83%
計	100.00%

■組入上位業種

	業　種　名	投資比率
1	電気機器	21.51%
2	銀行業	12.35%
3	情報・通信業	8.56%
4	保険業	8.34%
5	機械	6.85%

■対ベンチマーク　オーバーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	保険業	8.34%	3.82%
2	建設業	5.11%	2.05%
3	情報・通信業	8.56%	6.36%
4	その他金融業	3.03%	1.23%
5	化学	6.30%	4.57%

■対ベンチマーク　アンダーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	サービス業	0.83%	4.86%
2	卸売業	4.14%	7.68%
3	食料品	0.52%	2.87%
4	小売業	1.66%	3.99%
5	医薬品	1.72%	3.60%

■過去の分配実績（税引前）

決算期	分配金
第20期(2021年11月22日)	0円
第21期(2022年11月21日)	0円
第22期(2023年11月20日)	0円
第23期(2024年11月20日)	0円
第24期(2025年11月20日)	0円
設定来累計	0円

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】	【特別勘定が投資する投資信託】
日本株式ファンド SR	シュローダー日本株式オープンVA（適格機関投資家専用） 【運用会社】 シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。

■マンスリー・コメント

10月は、中東情勢の悪化による原油高に加え、米国のネオクラウドを中心にAIインフラに対する巨額投資への懸念からAI関連株が売られ、マーケットは下落となりました。月の前半は、2日（現地時間）に発表された9月の米雇用統計が市場予想を下回り早期の利上げ観測が後退したことから堅調推移となったものの、その後はネオクラウド企業の社債価格急落などを受け、AI・半導体関連に売りが広がる展開となりました。後半に入っても軟調な動きは継続し、AI・半導体関連が下げを主導する動きとなりました。7-9月期の決算発表の内容は良好なものが多く、好決算を発表した銘柄への買いも一部で見られましたが、相場全体としては売り優勢の展開が継続しました。30 日に開催された日銀金融政策決定会合において、日銀は金利の据え置きを決定しましたが、基調的な物価上昇率は目標としている2%と概ね整合的な水準に達したとし、利上げ継続の方針を示しました。結局、月間でTOPIX（配当込み）は-3.5%の下落となりました。

東証33業種別騰落率ですが、上位5業種についてはサービスがトップ、鉱業、医薬品、海運、小売が続きました。一方、下位5業種は非鉄金属がトップ、機械、銀行、電気機器、金属製品となりました。今月はリバーサルファクターが有効な相場となりました。

日本企業の業績に関してですが、足元で発表されている7-9月期の決算に関しては円安メリットの縮小や中東影響によるコストアップはあるものの、概ね堅調な業績が継続しています。但し、中東情勢の影響に関しては概ね上期までのインパクトが織り込まれており、下期以降のマイナス影響は会社計画に対する下振れ要因となります。市場では、AIインフラ投資の持続性に対する懸念が台頭していることに加え、目先は米国における中間選挙の影響を見極める動きとなる中で、ボラティリティの高い相場展開を想定します。

日本企業は、高水準の自社株取得枠を発表するなど株主還元を積極化させています。東証は資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を求めており、持合い株の解消や株主還元の改善などガバナンス改革は中期的に進展すると判断できることから、日本株固有の支援材料になると見ています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
日本株式インデックスファンド225 NKA

【特別勘定が投資する投資信託】
インデックスファンド225 VA（適格機関投資家向け）

【運用会社】
アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象
日本の上場株式。主にインデックスマザーファンド225受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
「インデックスマザーファンド225」受益証券を主要投資対象とします。同マザーファンドにて主に日本の上場株式に投資して「日興バーラ 日本株式モデル」を活用してポートフォリオを構築することにより、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果の獲得を目指します。

◆基準価額と純資産総額

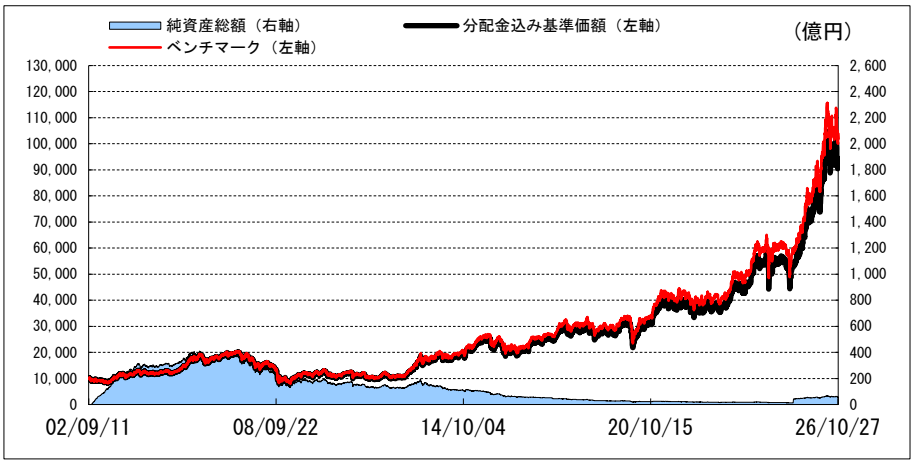
基準価額	91,054円
純資産総額	57.16億円

◆資産構成

株式		99.23 %
	プライム	99.23 %
	スタンダード	0.00 %
	グロース	0.00 %
	その他	0.00 %
株式先物		0.76 %
株式実質		99.99 %
現金その他		0.77 %

※当ファンドの実質の組入比率です。

◆基準価額の推移グラフ　　基準日　2026年10月30日



※基準価額、ベンチマークは、設定日の前営業日を10,000として指数化しています。
※ベンチマークは日経平均トータルリターン・インデックスです。
※2023年9月16日に、当ファンドのベンチマークを「日経平均株価（２２５種・東証）」から「日経平均トータルリターン・インデックス」に変更しました。

◆ファンド（分配金再投資）とベンチマークの収益率とリスク（標準偏差）

	3ヵ月間	6ヵ月間	1年間	3年間	5年間	10年間	設定来
ファンド収益率（分配金再投資）	-1.10 %	7.35 %	22.22 %	28.78 %	18.74 %	15.47 %	9.65 %
ベンチマーク収益率	-1.02 %	7.57 %	22.73 %	29.34 %	19.26 %	15.97 %	10.11 %
差　異	-0.08 %	-0.22 %	-0.51 %	-0.56 %	-0.52 %	-0.51 %	-0.47 %
ファンドリスク（分配金再投資）			29.68 %	21.96 %	19.65 %	17.84 %	18.82 %
ベンチマークリスク			29.68 %	21.97 %	19.65 %	17.85 %	18.82 %

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満（3ヵ月間、6ヵ月間）は、年率換算していません。
※ファンド（分配金再投資）の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入（再投資）し、算出しています。
※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

◆株式組入上位10業種

	業種名	ファンドのウェイト	ベンチマークのウェイト
1	電気機器	35.39 %	35.67 %
2	小売業	11.80 %	11.89 %
3	情報・通信業	10.65 %	10.74 %
4	サービス業	5.22 %	5.26 %
5	化学	4.55 %	4.59 %
6	医薬品	4.16 %	4.19 %
7	卸売業	3.62 %	3.65 %
8	機械	3.59 %	3.62 %
9	輸送用機器	2.87 %	2.89 %
10	食料品	2.41 %	2.42 %

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

◆株式組入上位10銘柄（組入銘柄数 225銘柄）

	銘柄名	ファンドのウェイト	ベンチマークのウェイト
1	アドバンテスト	11.79 %	11.88 %
2	ファーストリテイリング	9.56 %	9.63 %
3	東京エレクトロン	7.54 %	7.60 %
4	ソフトバンクグループ	5.68 %	5.73 %
5	リクルートホールディングス	3.04 %	3.07 %
6	ＴＤＫ	2.04 %	2.05 %
7	ＫＤＤＩ	1.80 %	1.81 %
8	イビデン	1.77 %	1.78 %
9	信越化学工業	1.58 %	1.59 %
10	ファナック	1.51 %	1.52 %

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

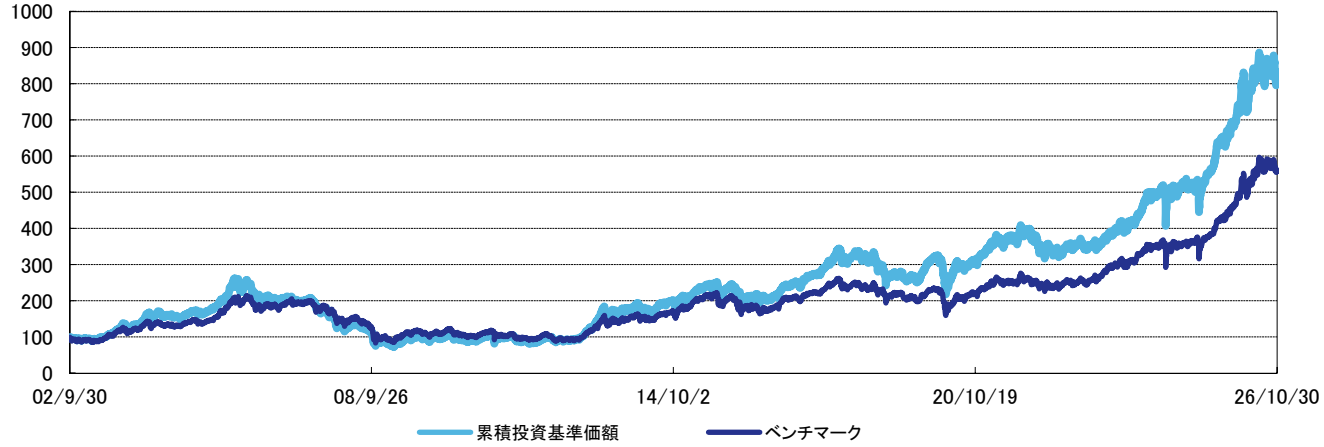
日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

2026年10月30日現在　マンスリーレポート

累積投資基準価額の推移



※ 設定時を100とした指数値を使用しています。
※ 累積投資基準価額は税引前分配金を再投資したものとして算出しています。
※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」の指数値に基づき記載しています。

ファンドのパフォーマンス（%）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	-6.63	-1.91	-0.03	20.92	98.43	105.41	700.02
ベンチマーク	-4.08	-0.86	5.98	25.66	87.29	114.96	457.53

※ ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして算出した累積投資基準価額により計算しています。
※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」の指数値に基づき記載しています。

ファンドデータ

基 準 価 額	80,002円
純 資 産 総 額	3.44億円
ファンド設定日	2002年9月30日

Russell/Nomura Mid-Small Cap Index とは

RUSSELL/NOMURA日本株インデックスの投資スタイルの中のひとつで、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が作成している株式の指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他の権利はフランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属しております。また、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

税引前分配金

分 配 金 累 計 額		0円
第22期	2024年3月15日	0円
第23期	2025年3月17日	0円
第24期	2026年3月16日	0円

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

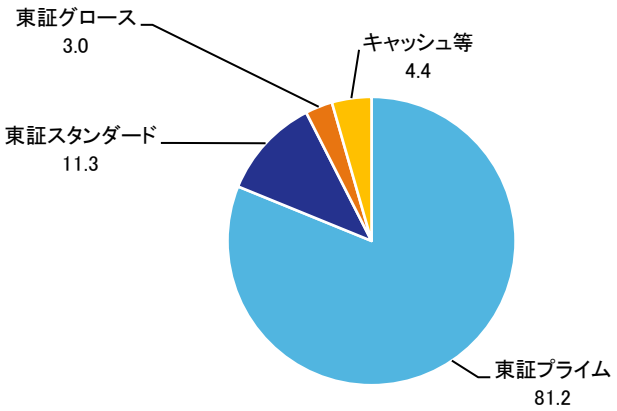
運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

資産構成比率（%）＊

商品名	比率
株　式	95.6
キャッシュ等	4.4
合計	100.0

市場別組入比率（%）＊



※非上場には新規上場予定銘柄（IPO）を含みます。

株式組入上位10業種（%）＊

	業種	比率
1	電気機器	12.4
2	化学	7.0
3	小売業	6.7
4	銀行業	6.3
5	精密機器	6.3
6	建設業	4.7
7	情報・通信業	4.6
8	保険業	4.1
9	その他金融業	4.0
10	卸売業	3.2

株式組入上位10銘柄（%）＊

銘　柄　数　：　104

	銘柄名	業種	比率
1	ｷｵｸｼｱﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	電気機器	2.8
2	倉敷紡績	繊維製品	2.3
3	INPEX	鉱業	2.1
4	参天製薬	医薬品	1.9
5	日清紡ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	電気機器	1.9
6	商船三井	海運業	1.8
7	京三製作所	電気機器	1.6
8	ｼﾞｰｴﾙﾃｸﾉﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	精密機器	1.6
9	九州旅客鉄道	陸運業	1.6
10	大阪瓦斯	電気・ｶﾞｽ業	1.6

＊比率は対純資産総額、マザーファンドベース。構成比率および組入比率（%）の数字は四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

月次コメント

1. 市場環境

10月の日本株式市場は、中東情勢悪化を受けた原油価格上昇やAI投資の持続性を巡る懸念から下落しました。上旬は、米雇用指標の下振れを受けた追加利上げ観測の後退や日銀短観での製造業の景況感改善などが追い風となり、AI半導体関連を中心に買われたものの、その後は中東情勢緊迫化への警戒感などから上げ幅を縮小しました。中旬は、米物価指標の上振れを受けた追加利上げ観測の再燃に加え、米新興AIクラウド企業の信用不安や日銀高官のタカ派的発言が重石となり下落しました。下旬は、米メタの四半期フリーキャッシュフローのマイナス転換などを受け、AI投資の収益性や持続性を巡る懸念が強まりました。その後、米アンソロピックのIPO（新規株式公開）に向けた目論見書の公開や韓国SKハイニックスの好決算を支えに一時反発しましたが、月末にかけては再び売りが優勢となりました。この結果、TOPIXは月間で3.5%下落しました。尚、東証グロース250指数は、ソフトウェア関連企業の一角が買われたものの、投資家心理の悪化や一部主力銘柄の下落が重石となり、月間で2.5%下落しました。

2. 運用経過

当月は、好調な業績観測に加え通期業績予想の上方修正と増配が好感された国産ERP（基幹業務システム）プロバイダー、AI投資の過熱懸念を背景に株価が下落し非保有がプラスに寄与した大手電線メーカー、中東情勢への警戒による原油価格の上昇が好感された資源開発大手などがプラスに貢献しました。一方で、AI・半導体関連株全体への売りが波及し株価が下落した金属製配管メーカー、月初に年初来高値を付けた後株価の調整が続いた電子機器・自動車部品メーカー、追加利上げ見送り観測と長期金利低下を背景に銀行株への売りが波及した地方銀行などがマイナスに影響しました。当ファンドでは、海外での販売拡大を通じた中長期的な利益成長が期待できると判断した医療機器メーカー、米国住宅事業の中長期的な成長力に対し株価は割安と判断した住宅・木材大手、金利上昇に伴う利益成長が期待できる中で割安と判断した地方銀行などを購入しました。一方で、株価上昇に伴い同業他社に対する相対的な投資魅力度が低下したと判断した地方銀行、システムインテグレーター、国産ERPプロバイダーなどを売却しました。

3. 市場の見通し及び今後の運用方針

世界の株式市場では、企業業績の堅調さが持続するかどうかに加え、インフレ動向や各国の金融政策が引き続き意識される展開となっております。米国では物価指標や雇用統計などのマクロ経済指標に加え、AI関連企業の巨額投資の収益性や資金調達への懸念が意識されており、足元ではAI・半導体関連株が調整しております。また、11月の中間選挙の結果、来年1月から大統領の所属政党と議会の多数派政党が異なる見通しとなり、今後の政策運営への影響にも注目しております。日本では、日銀が10月の金融政策決定会合で政策金利を据え置く一方、保有ETFの売却ペースを来年1月から引き上げる方針を決定しており、今後の金融政策正常化と株式需給への影響を見極める必要があると考えております。もっとも、業績成長が伴う企業については中長期的な投資魅力は変わらず、今後は金利やバリュエーションを意識しながら、より業績の確度を重視した銘柄選別が進んでいくものと考えております。発表が進む7-9月期決算では、業績動向に加え、東証による資本コストや株価を意識した経営の要請や7月のコーポレートガバナンス・コード改訂を背景として、各社が成長投資、事業ポートフォリオの見直し、株主還元などを含む資本配分をどのように変化させていくかにも注目していきたいと考えております。製造業を主とする外需企業においては、生成AI関連を中心とした設備投資需要の持続性や、経済安全保障の観点から進む世界的なサプライチェーン再構築の影響が引き続き注目されます。内需関連企業においては、物価上昇や為替変動による消費への影響には注意が必要ですが、賃金上昇が継続するなか、実質所得の改善が個人消費の回復につながる可能性に注目しているほか、インバウンド需要が国内の消費関連企業の業績に与える影響にも引き続き注目したいと考えております。中期的には、少子高齢化や人口減少が進む日本にあって、生産性改善を目的とした企業再編やAI活用を含むデジタル化への取り組みは、経済成長に必要不可欠であると考えております。当ファンドでは、こうした環境変化を注視しながら、中長期的な成長が期待できる中小型企業への投資機会を引き続き発掘してまいります。

※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
また将来について保証するものではありません。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
外国株式インデックスファンド MS

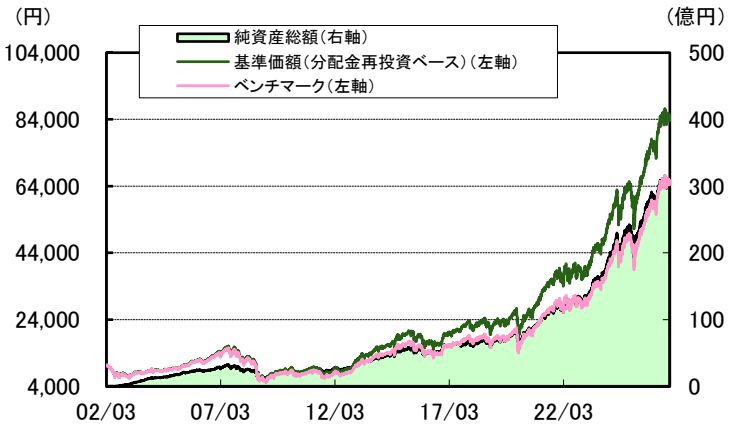
【特別勘定が投資する投資信託】
インベスコ　MSCIコクサイ・インデックス・ファンド

【運用会社】
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

主要投資対象
日本を除く世界の先進国の株式。主にMSCIコクサイ・インデックス・マザーファンドを通じて投資が行われます。

運 用 方 針
主に日本を除く世界先進国の株式に投資し、MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円換算ベース）に連動した投資成果を目指します。

運用実績



*過去の運用実績は将来の運用成果を保証するものではありません。
*基準価額は税引前分配金再投資の基準価額です。
*基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は純資産総額に対して年率0.77%（税抜0.70%）です。
*ベンチマークは、簡便法（基準日前日のドル建指数を基準日のドル円TTMレートで評価する方法）で算出した後、ファンドの設定日のベンチマークと基準価額を同値として指数化しています。
＊ベンチマークは2023年10月6日よりMSCI コクサイ・インデックス（税引後配当込み、円換算ベース）を使用しています。2023年10月5日まではMSCI コクサイ・インデックス（円換算ベース）を使用しています。

累積リターン

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来（月次）	設定来
ファンド	0.82%	0.41%	5.56%	15.50%	93.10%	125.09%	717.38%	747.70%
ベンチマーク	0.88%	0.58%	5.90%	16.27%	97.06%	125.25%	530.77%	－

*ファンドの累積リターンは、税引前分配金再投資により算出しています。信託報酬控除後のリターンです。
*ベンチマークの累積リターンは、ファンドの基準価額算出方法と同一基準（基準日前日の各外貨建資産を基準日の各通貨毎のTTMレートで評価する方法）で月次ベースでのみ算出しています。尚、2009年5月1日より日次ベースでの算出に変更しています。

組入株式上位10銘柄（ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ）

	銘柄名	国名	業種	比率
1	APPLE	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.9%
2	NVIDIA	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.6%
3	MICROSOFT	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.3%
4	AMAZON.COM	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.7%
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	1.9%
6	BROADCOM	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.8%
7	META PLATFORMS-A	アメリカ	メディア・娯楽	1.6%
8	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	1.5%
9	TESLA	アメリカ	自動車・自動車部品	1.3%
10	ELI LILLY & CO	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.3%

*比率はマザーファンドの純資産総額対比で計算しています。
*業種はベンチマークで採用している分類に準じています。

基準価額・純資産総額

2026年10月30日現在

基準価額	84,770（円）
純資産総額	30,611（百万円）

*基準価額は信託報酬控除後です。

収益分配金の推移（直近4期）

	分配金
第21期　(2022.11.21)	0円
第22期　(2023.11.20)	0円
第23期　(2024.11.19)	0円
第24期　(2025.11.19)	0円
設定来累計	0円

＊ 税引前分配金です。 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

資産構成比率（ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ）

株式	98.3%
先物取引	1.5%
現金等	0.1%
銘柄数	1,085

＊現金他の比率は、純資産総額から組入有価証券評価額を差し引いて算出していますので一時的にマイナスになることがあります。
※株式には、投資信託証券などが含まれます。

組入株式上位5カ国（ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ）

	国名	純資産比率
1	アメリカ	76.1%
2	イギリス	3.6%
3	カナダ	3.6%
4	スイス	2.4%
5	フランス	2.3%

組入株式上位5業種（ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ）

	業種	純資産比率
1	半導体・半導体製造装置	13.6%
2	ソフトウェア・サービス	8.7%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8.7%
4	資本財	7.4%
5	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.3%

*業種はベンチマークで採用している分類に準じています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
外国株式インデックスファンド MS

【特別勘定が投資する投資信託】
インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ファンド

【運用会社】
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本を除く世界の先進国の株式。主にMSCIコクサイ・インデックス・マザーファンドを通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本を除く世界先進国の株式に投資し、MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円換算ベース）に連動した投資成果を目指します。

運用環境

米国
10月の米国株式市場は市場によって異なる展開となりました。月初は、大手ハイテク株を中心に買いが続き、株式市場は高値圏で推移しました。その後、米中の半導体開発競争への警戒に加え、米ハイテク企業による巨額のAI投資が続く中、投資に見合う収益を生み出せるかとの懸念が高まり、下落に転じました。月末には、一部の大手ハイテク企業の決算が市場の期待に届かなかったことや、AI関連の設備投資拡大による財務負担への懸念なども重しとなりました。月を通してみるとダウ工業株30種平均指数が上昇したものの、S&P500種指数、ナスダック総合株価指数は下落しました。

欧州
10月の欧州株式市場は市場によって異なる展開となりました。大陸欧州では、月初は、フランスの財政不安を背景に国債利回りが上昇したことや、中東情勢を背景とした原油価格の高止まりなどが重しとなりました。その後は、米国を中心にAI関連株への警戒が強まった一方、欧州企業の良好な決算などが相場を支え、ドイツ株式市場が上昇した一方、イタリアなどの株式市場は下落する展開となりました。英国では、財務省が財政規律重視の予算案策定方針を示したことなどが好感され、株式市場は上昇しました。

アジア
10月のアジア主要株式市場は市場によって異なる展開となりました。香港株式市場は、中東情勢の緊張や原油価格の高騰が重石となったこと、中国大手ハイテク銘柄が軟調となったことなどが嫌気され、下落しました。オーストラリアでは、9月の雇用統計で就業者数が市場予想に反して減少し、追加利上げ観測が後退したことなどを受け、株式市場は小幅に上昇しました。日本では、中国との半導体開発競争への警戒感が強まったこと、米ハイテク企業の巨額のAI投資による財務不安が懸念されたことなどを受け、下落しました。

今後の見通し

10月の世界の主要株式市場は、主に、①原油価格の高止まりによるインフレ懸念が再燃したこと、②米ハイテク企業のAIに対する巨額投資や、新興AI企業の信用リスクの高まりが懸念されたこと、③主要中央銀行による年内の追加利上げが意識されたことなどが重しとなった一方、ディフェンシブ株などへの資金シフトが進み、市場によって異なる展開となりました。
世界主要株式市場では、引き続き、企業業績の推移、金利・インフレ動向、各中央銀行の金融政策、地政学リスクの台頭などを背景に、金融市場の変動性が高水準で推移する可能性があると見ております。中期的な観点では、地政学リスクは落ち着きを見せ、インフレ圧力が低下するとともに、株式市場は緩やかに上昇していくと見ております。

・ファンド・マネジャーのコメントは、将来の市況環境を保証するものではなく、このため、将来の投資成果等を保証するものではありません。 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。本書は信頼できる公開情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性あるいは完全性は保証されていません。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
外国債券ファンド PJ

【特別勘定が投資する投資信託】
ピムコ・海外債券ファンド（適格機関投資家専用）

【運用会社】
ピムコジャパンリミテッド

主要投資対象

日本を除く世界各国の各種公社債。

運 用 方 針

主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。

[追加型証券投資信託／ファンドオブファンズ]　　[設定日]　2002年9月24日
[基準価額]　27,728 円　　[決算日]　毎年9月25日

1. パフォーマンス



騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年	設定来
ファンド*	1.50%	-2.42%	-3.26%	0.23%	3.93%	4.32%
ベンチマーク**	1.34%	-2.02%	-2.81%	1.80%	4.40%	4.00%
超過収益	0.16%	-0.40%	-0.45%	-1.57%	-0.47%	0.32%

*信託報酬控除後、1年を超える期間は年率換算してあります。
**2022年12月15日以降はFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）。
それ以前は、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）90%、ICE BofA TONAR オーバーナイトレートインデックス10%を合成したものを使用しています。

分配実績

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
日付	03/09/25	04/09/27	05/09/26	06/09/25	07/09/25	08/09/25	09/09/25	10/09/27	11/09/26	12/09/25
金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	累計
日付	13/09/25	14/09/25	15/09/25	16/09/26	17/09/25	18/09/25	19/09/25	20/09/25	21/09/27	22/09/26	23/09/25	24/09/25	25/09/25	26/09/25	-
金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

PIMCO

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
外国債券ファンド PJ

【特別勘定が投資する投資信託】
ピムコ・海外債券ファンド（適格機関投資家専用）

【運用会社】
ピムコ ジャパン リミテッド

主要投資対象
日本を除く世界各国の各種公社債。

運 用 方 針
主に世界各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。

2. ファンド特性

【ファンドの一般的特性】

平均クーポン	3.49%
平均直接利回り	3.76%
平均最終利回り	4.86%
平均デュレーション(年)	6.84
平均償還期間(年)	11.39
平均格付け*	AA
債券組入比率	99.39%

*平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

【格付構成比】

格付	組入比率
AAA	10.79%
AA	67.30%
A	11.36%
BBB	7.50%
BB以下	0.04%
A1/P1	3.01%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

【国別配分】

国名	組入比率
アメリカ	38.41%
ユーロ圏	28.64%
イギリス	10.84%
中国	10.55%
オーストラリア	3.36%
韓国	3.09%
ニュージーランド	1.66%
その他	3.45%
合計	100.00%

【種類別配分】

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	72.40%
モーゲージ債、アセットバック債	19.62%
社債	4.38%
キャッシュ等*	3.60%
合計	100.00%

*「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

3. 運用担当者のコメント

《市場コメント》

米国債券相場では、月初、FRB（米連邦準備制度理事会）高官らの発言から利上げ観測が後退し相場は一時上昇したものの、概ね横ばいで推移しました。月半ばは、AI関連投資に対する懸念を受け投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、相場は上昇しました。月末にかけては、大手テック企業の決算を受けてAI投資への懸念が一段と強まったことで上げ幅を拡大し、月を通じてみると、米国債券相場は上昇しました。（2年債利回りは前月比0.30%低下、10年債利回りは前月比0.36%低下しました。）
欧州債券市場では、月初、フランスの財政懸念を受け同国国債が売られた一方、安全資産とされるドイツ国債が買われたことなどを背景に、相場は上昇しました。月後半は、フランスの社会不安が重しとなったものの、AI関連投資に対する懸念からリスク回避姿勢が強まったことに加え、ECB（欧州中央銀行）が金融環境の引き締まりに言及したことから利上げ観測が後退し、上昇しました。（2年債利回りは前月比0.17%低下、10年債利回りは前月比0.26%低下しました。）
英国債券市場では、月前半、原油価格の上昇や英中銀高官がインフレに対する懸念を示したことなどを背景に相場は上値の重い展開となりました。月後半は、AI関連投資に対する懸念からリスク回避姿勢が強まったことに加え、同国財務省が提示した予算案で財政規律が維持されたことも下支えとなり、相場は上昇しました。（2年債利回りは前月比0.02%低下、10年債利回りは前月比0.14%低下しました。）
日本債券市場は、月初、日銀の追加利上げ観測や米長期金利の高止まりを背景に軟調に推移しました。月半ば以降にかけては、米長期金利の低下に加え、AI・半導体関連株の下落を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから上昇しました。（2年債利回りは前月比0.07%低下、10年債利回りは前月比0.28%低下しました。）

《パフォーマンス》

先月のパフォーマンスはプラス1.50%となり、ベンチマークを0.16%上回りました。政府関連債への投資がマイナス寄与となった一方、欧州の中期ゾーンにおける金利リスクへの積極姿勢や、米国政府系モーゲージ債への投資などがプラス寄与となりました。

《今月の運用方針》

2026年の世界経済は、関税やエネルギー高の中でも、AI投資の継続や資産効果等を背景に底堅さが維持される一方、中東情勢に起因するエネルギー供給ショックにより、成長の下振れリスクとインフレ上振れリスクが同時に意識される見通しです。金融政策は、主要な中央銀行がインフレ期待の安定に向けて引き締めを行う見通しですが、2022年のような利上げサイクルになるとは見ておりません。ただし、エネルギー価格が一段と上昇した場合には、追加の引き締めを迫られる可能性があります。米国については、AI関連投資等の裾野の広がりが下支えとなり底堅い成長が見込まれる一方で、中東情勢に伴うエネルギー供給ショックが一段と深刻化した場合には、成長の下振れリスクが高まるとみています。インフレについては、エネルギーコストの価格転嫁が続く中で年内は高止まりするリスクが意識されるものの、関税や半導体メモリ価格、エネルギー価格上昇の影響が剥落していき、2027年にかけてインフレ圧力は低下する見通しです。金融政策は、インフレ期待の安定を重視するFRBの政策運営を背景に、1～2回の追加利上げを予想していますが、長期的な利上げサイクルではなく政策スタンスの再調整にとどまるとみています。ユーロ圏では、AIや防衛、エネルギー安全保障などの財政出動が進む一方、財政余力が限られる国も多く、中東情勢を背景としたエネルギー供給ショックが長期化した場合、成長の鈍化や市場の不安定化につながる可能性があります。インフレ率については、エネルギー価格を主因に足元で上昇しているものの賃金等への二次的波及は限定的であり、2027年末にかけて目標水準に収斂していくと見込んでいます。そのため市場はECBの利上げを過度に織り込んでいるとみています。ファンド全体でのデュレーションはベンチマーク対比ではオーバーウェイトとし、国・地域・年限間の相対価値を重視して投資します。また、セクター戦略については、政府保証等により高い健全性を維持している政府系モーゲージ債や、リスクを考慮しても魅力的な利回りを提供すると考えられる証券化商品などに選択的に投資します。

＊ 将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
市況データ出所：ブルームバーグ

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
外国債券インデックスファンド TMY

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ 外国債券ファンドVA2（適格機関投資家限定）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

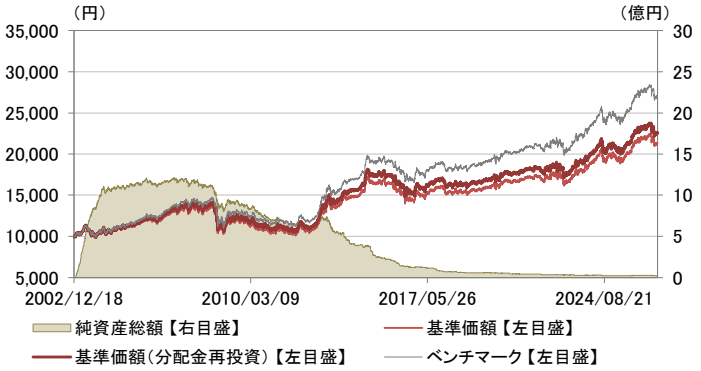
主要投資対象
日本を除く世界主要国の公社債。主に外国債券インデックスマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針
主に日本を除く世界主要国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。

■商品概要

主要投資対象	外国債券インデックスマザーファンド受益証券（外国の公社債に直接投資することもあります。）
運用方針	①外国債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とし、ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース））に連動する投資成果を目指して運用を行います。2021年11月末基準より外国債券部分に係るベンチマークをFTSE Fixed Income LLCより提供されている円ベースの指数から当社で円換算した指数に変更しました。 ②外国債券インデックスマザーファンドは、日本を除く世界主要国の公社債を主要投資対象とします。 ③日本を除く世界主要国の公社債に直接投資することもできます。 ④外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いません。ただし、市況動向等の判断により、為替ヘッジを行う場合があります。
設定日	2002年12月8日
信託期間	無期限
決算日	毎年2月20日（休業日の場合、翌営業日）

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後の値です。
・基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.3%	−3.2%	−3.4%	0.9%	19.2%	126.2%
ベンチマーク	1.3%	−3.1%	−3.2%	1.7%	21.9%	170.7%

・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
　また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
・分配金実績がある場合は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

■組入上位10ヵ国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	44.6%
2	中国	13.2%
3	フランス	6.5%
4	イタリア	6.0%
5	イギリス	5.7%
6	ドイツ	5.4%
7	スペイン	3.9%
8	カナダ	2.1%
9	韓国	1.9%
10	ベルギー	1.4%

■基準価額および純資産総額

基準価額（1万口当たり）	21,370円
前月末比	+282円
純資産総額	0.24億円

■分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算期	決算日	分配金
第24期	2026/02/20	0円
第23期	2025/02/20	0円
第22期	2024/02/20	0円
第21期	2023/02/20	0円
第20期	2022/02/21	0円
第19期	2021/02/22	0円
設定来累計		730円

■資産構成

	比率
実質外国債券	99.3%
内　現物	99.3%
内　先物	0.0%
コールローン他	0.7%

■ポートフォリオ特性

	当月末
最終利回り	4.1%
直接利回り	3.2%
デュレーション	6.0

■残存期間別組入比率

残存期間	比率
1年未満	1.4%
1～3年	28.8%
3～5年	20.1%
5～7年	13.0%
7～10年	14.1%
10年以上	21.8%

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 1,080銘柄

	銘柄	種別	クーポン	償還日	国・地域	比率
1	0.875 T-NOTE 301115	国債	0.8750%	2030/11/15	アメリカ	0.8%
2	2.75 T-NOTE 320815	国債	2.7500%	2032/08/15	アメリカ	0.7%
3	0.625 T-NOTE 300815	国債	0.6250%	2030/08/15	アメリカ	0.7%
4	4.125 T-NOTE 321115	国債	4.1250%	2032/11/15	アメリカ	0.6%
5	1.625 T-NOTE 310515	国債	1.6250%	2031/05/15	アメリカ	0.6%
6	2.375 T-NOTE 290515	国債	2.3750%	2029/05/15	アメリカ	0.6%
7	5.375 T-BOND 310215	国債	5.3750%	2031/02/15	アメリカ	0.6%
8	0.625 T-NOTE 300515	国債	0.6250%	2030/05/15	アメリカ	0.6%
9	1.375 T-NOTE 311115	国債	1.3750%	2031/11/15	アメリカ	0.6%
10	2.875 T-NOTE 320515	国債	2.8750%	2032/05/15	アメリカ	0.5%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・国・地域は原則、発行地で分類しています。・利回り、デュレーションは組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・利回りはファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。・FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）は、FTSE世界国債インデックス（除く日本）・データに基づき委託会社が計算したものです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
　したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
マネー MA

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱 MRF（マネー・リザーブ・ファンド）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象
国内外の公社債、コマーシャル・ペーパーを主要投資対象とします。

運　用　方　針
主に信用度が高く残存期間の短い日本国内外の公社債、CP等の短期金融商品に投資することによって、安定した収益の確保を目指します。

■ファンドの特色

信用度が高く、残存期間の短い内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

■資産構成

	評価金額（円）	比率
公社債	1,387,485,796	2.8%
（うち固定債）	(1,387,485,796)	2.8%
（うち変動利付債）	(0)	0.0%
短期金融資産	48,942,128,075	97.8%
（うちコールローン）	(23,054,000,000)	46.1%
（うちCD）	(0)	0.0%
（うちCP）	(0)	0.0%
（うち現先・レポ）	(25,888,128,075)	51.7%
（うち割引手形）	(0)	0.0%
その他資産	−298,242,329	−0.6%
純資産総額	50,031,371,542	100.0%

・公社債は、国債、地方債券、特殊債証券を除く。
・固定債：変動利付債以外の債券。
・CD等は、CD、コールローン（国債等を担保とする有担保コールを除く）、指定金銭信託等。
・その他資産は、指定金銭信託、未収金、未払金等。

■ファンド概況

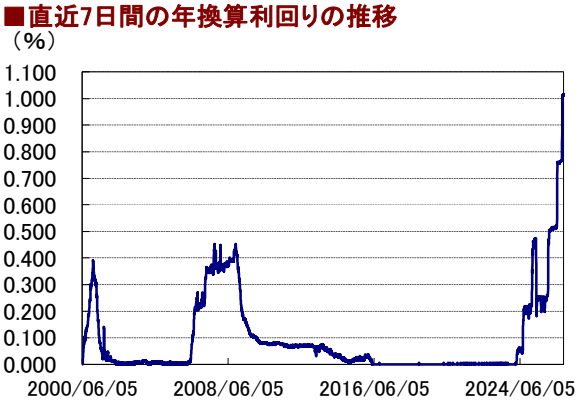
基準価額（1万口当たり）	10,000円
純資産総額	500.31億円

■ポートフォリオ特性

平均残存日数	4.4日
組入銘柄数	7

・組入銘柄数は一部買現先を含みます。

■直近7日間の年換算利回りの推移



■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 7銘柄

	銘柄	種別	クーポン	償還日	比率
1	第1401回国庫短期証券	国債	0.0000%	—	49.2%
2	第1398回国庫短期証券	国債	0.0000%	—	2.6%
3	第1397回国庫短期証券	国債	0.0000%	2026/11/02	0.7%
4	第1410回国庫短期証券	国債	0.0000%	2027/01/12	0.6%
5	第1413回国庫短期証券	国債	0.0000%	2027/01/25	0.6%
6	第1406回国庫短期証券	国債	0.0000%	2026/12/14	0.5%
7	第1412回国庫短期証券	国債	0.0000%	2027/01/18	0.4%
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—

■債券種別比率

種別	比率
国債	54.5%

・組入上位10銘柄、債券種別比率は一部買現先を含みます。償還日「－」の銘柄は現先取引分です。
・同一銘柄の債券現物と現先が混在する場合、合算して表示し、償還日は現物の償還日を表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・比率は経過利子等を債券時価に含まず算出しております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。